

第43回 横須賀市体カづくり実践研究発表会報告

報告者：石川輝雄

1. 日時；2024年1月31日 15:30～16:30 場所；横須賀市役所 正庁
2. 主催；横須賀市教育委員会
3. 協賛；横須賀市小学校体育研究会、横須賀市中学校体育研究会
横須賀市スポーツ推進委員協議会、横須賀市体育協会、横須賀市スポーツ推進審議会
4. 目的；各学校が、本市児童生徒の健康の保持増進及び体力向上に関する施策を理解し、運動習慣の定着と生活習慣の改善を推進するために、研究委託校の発表、学識者の助言を通して、それぞれの実情や発達段階に応じて、家庭、地域と連携して取り組む。
5. 対象；市幼稚園・学校教職員（地域指導者含む）PTA、社会体育団体指導者、スポーツ推進委員協議会など約100名。
6. 内容；(1)横須賀市研究委託事業発表 池上ブロック（中学校・小学校）
(2)令和5年度横須賀市体カ・運動能力・生活習慣調査結果報告
(3)神奈川県立保健福祉大学；鈴木志保子教授提供資料

7. 気づいたこと感じたこと

- (1) 横須賀市委託研究校発表・池上中学校（ブロックは1小1中である）

＜研究テーマ＞ 自らの健康の保持増進と体力の向上を目指して、主体的に生活改善に取り組める児童生徒の育成

- ・R5年度いろいろあるが、目ぼしい取り組みは、小中合同歯科保健指導は対面とオンラインハイブリッドで開催。また、養護教諭と連携した保健授業と小中共通で、スクリーンタイムにアプローチできたことがあげられる。
- ・次年度への課題としては、①職員全体に体力向上によるメリットを伝える必要がある。②今回の体力テストの結果の周知を挙げている。

- (2) 令和5年度横須賀市児童生徒体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

この項目に一番関心があった。①スポーツが好き・やや好きは増加し小学校では過去最高数値（小5の女兒は横ばい）。中学校は向上傾向。②1週間の運動時間が0分の人割合は、小学校では大幅減少。中学校では増加。③朝食を食べない人は減少。④睡眠時間が6時間未満の児童は過去最少に減少。

体力測定合計点はコロナ禍？の影響か減少傾向になっている。指標となっている、小5と中2では何れも全国平均を下回っている、今後の分析が必要のように感じた。

- (3) 鈴木志保子教授の研究；R5年度中学生の睡眠時間に関して、起床後の身体の動きやすさと活発にできる時間帯からの検討。わかってきたこともあるが、新体力テストと生活状況調査のみの解析であったため、今後は、保健データなどと連結することにより、さらに子どもの良好な発育発達のための研究が必要と結ばれている。

8. 最後に

- (1)平成23年に協議会が教育委員会と連携し小学校の新体力測定員講習会を始めて以来、本報告会に都合をつけて出席しています。
- (2)今後も注目して取り組んでいきたいと考えています。